

研究実施のお知らせ

2020年12月3日 ver.1.0

研究課題名

plication 法での短縮術を併用した外斜視症例の術後成績

研究の対象となる方

島根大学医学部附属病院で外斜視と診断,手術適応かつ手術に同意が得られたうえで、2019年8月から2020年11月30日の間に plication 手術を受けられた方

研究の目的・意義

斜視とは眼位の異常であり,人口の約3%にみられるとする統計もあります。物を見ようとする時に片目は正面を向いていても,もう片目が違う方向を向いてしまっている状態が斜視です。片目が正常な位置にあるときに, 外側に向いてしまっている状態を外斜視といいます。斜視の原因としては外眼筋や神経の異常,屈折異常,脳の病気,全身性の疾患に伴うものがあります。斜視の原因としては外眼筋や神経の異常,屈折異常,脳の病気,全身性の疾患に伴うものがあります。

斜視の根本的治療として手術があげられます。今までは水平斜視に対する手術において, 筋強化手術のスタンダードは短縮術という筋を切離す手術でした。Plicationとは比較的新しい術式であり,筋を付着部から切離せず折りたたむ術式です。低侵襲,という最大の利点があります。術中の利点として, 筋断端からの出血が生じないため術操作が容易となります。また,plicationは術量が多くても比較的操作が容易となります。術後の利点として筋を見失う可能性がなくなります。また, 切腱しないため眼の虚血を回避できる可能性が示唆されています。さらに,術後の再手術も比較的容易に行うことが可能です。

本研究の目的は,外斜視の患者に対し比較的新しい斜視の筋強化手術であるplicationを行った外斜視の患者の,その術後成績を評価することです。

研究の方法

島根大学附属病院眼科における外来受診にて外斜視と診断され,かつ手術適応とみなされた患者に対し,比較的新しい斜視手術の術式であるplicationを行います。外斜視に対するplicationは,内直筋(眼を動かす筋肉のうち眼の内側についている筋肉)を折りたたみ糸を用いてもともと筋肉がくっついている部位に縫い付けます。Plicationは比較的新しい術式であり,術後の状態が落ち着いてくると考えられる術後6か月の時点で評価を行います。Plicationを行った外斜視の患者のその後の術後成績のデータを使用し

ます。

- 利用する情報は患者カルテから次のものを利用します。(視力、眼圧、性別、年齢、斜視検査結果、HESS 検査、顕微鏡によるスリット写真、眼位写真、術中動画)
- 研究で用いる情報は匿名化し取り扱います。研究対象者の識別は研究用に付与する識別番号によって行い、研究対象者との対応表は収集データとは別に研究責任者が保管します。研究結果公表の際にも、個人の特定につながる可能性のある情報は一切使いません。

研究の期間

2021年2月16日～2025年12月30日

研究組織

この研究は島根大学医学部眼科学講座が行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部眼科学講座 持地美帆子

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2021年7月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部眼科学講座 持地美帆子

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2284 FAX 0853-20-2278